

## 卒後臨床研修センターの専任医師として 研修医をサポートした経験より

江村 正<sup>1,3</sup>、吉田 和代<sup>1</sup>、山下 秀一<sup>1,2</sup>

### The Mentoring and Support for Postgraduate Medical Trainee

Sei EMURA<sup>1,3</sup>, Kazuyo YOSHIDA<sup>1</sup>, Shuichi YAMASHITA<sup>1,2</sup>

#### 要 旨

医師臨床研修必修化に伴い、佐賀大学医学部附属病院に卒後臨床研修センターが設置され、そこに専任医師として10年以上勤務した。数多くの研修医と関わり、さまざまな相談を受けた。それらをまとめて分類することは、研修医教育に関わる者に、研修医の相談事項を俯瞰する助けとなると思われた。また、面倒見の良い佐賀大学を目指す上で、学生・卒業生のサポートを考えるヒントとなると思われた。若干の考察を含めてここに報告する。

【キーワード】医師臨床研修制度、卒後臨床研修センター、メンタル・ヘルス

#### はじめに

佐賀大学医学部附属病院（以下、本院）では、医師臨床研修制度（以下、新制度）の必修化に際し、平成16年4月から、卒後臨床研修センターを設置し、そこに専任の医師（教員）を副センター長として配属することになった。筆者は一人目の専任医師として着任したが、目の前の研修医に起こるさまざまな問題の対応に追われ、気がついたら10年以上経っていた。専任医師は、平成20年12月から1名増員され2名となった。

本院における新制度下でのマッチ数は502名であり、研修医から受けたさまざまな相談や、彼らに施したサポートをまとめておくことは、研修医教育に関わる者に、研修医の相談事項を俯瞰する助けとなると思われた。また、面倒見の良い佐賀大学、学生・卒業生に愛される佐賀大学を目指す上でヒントとなると思われた。若干の考察を含めてここに報告する。

---

<sup>1</sup> 佐賀大学 医学部 附属病院 卒後臨床研修センター

<sup>2</sup> 佐賀大学 医学部 附属病院 総合診療部

<sup>3</sup> 責任著者

## サポートの分類（表１）

ここでは、サポートを「ある特定の研修医に、ある程度の時間を費やした相談ごとなど」と定義する。

表１ サポートの分類

研修プログラム採用	採用前	研 修 前
	採用後	研 修 中
		研修中断中
		研修修了後
研修プログラム採用外		研 修 前
		研 修 中
		研修修了後

## 研修プログラム採用前のサポート

佐賀大学医学部附属病院関連初期臨床研修プログラム（以下、佐賀大学研修プログラム）を希望している者の、採用前のサポートとしては、研修医マッチング関係の手続きミスの対応が挙げられる。社会人としての自覚を促すところから指導が始まる。マッチングで本院への採用が内定しても、医師国家試験に不合格となったら、佐賀大学とは一旦関係がなくなる。大学院への進学や、教員の共同研究者になることを勧めるなどして、佐賀大学とのつながりを保ち、図書館等も利用できるようにしている。

## 研修プログラム採用後のサポート（表２）

研修プログラム採用後のサポートには、研修中、研修中断中、研修修了後のサポートに分けられる。研修中のサポートが主になるが、中断中や修了後もサポートを継続することを心がけている。

表２ 研修プログラム採用後のサポート

健 康 問 題	メンタル・ヘルス
	非メンタル・ヘルス（疾病、外傷など）
妊 娠 ・ 出 産 ・ 育 児	産 休
	プログラム変更
研 修 関 係	指導医との関係
	医療事故・見落としでの落ち込み
	患者・家族との関係
	看過できない行動
進 路	決 定
	変更（奨学金の返還を伴う場合など）
そ の 他	親との関係
	恋人・配偶者との関係

健康問題は、メンタル・ヘルスと非メンタル・ヘルスに分けられる。その中では、メンタル・ヘルスの問題は、長期の研修中断に結びつき、もっとも切実である。適応障害による抑うつ状態がもっとも多い。保健管理センターや院内外の精神科医の協力を得ながら休養させるが、卒後臨床研修センターとしては、いつまで休ませて、どのように研修という業務に復帰させるか、という復職支援が非常に重要となる。非メンタル・ヘルスでは、入院を要するような内科疾患や手術が必要となる外傷などが挙げられる。

研修医の妊娠・出産・育児に関しての相談も多いが、これは、佐賀大学医学部は女子学生の割合が多く、本院の研修医も女性医師が多いことと関係している。制度上は、2年間の研修期間中に、90日までは正当な休みとして認められるが、妊娠悪阻がひどい場合は、90日を超えて休みが必要な場合もある。卒後臨床研修センターとしては、教育の観点から、休んだ分は研修を延期してきちんと修了することを推奨している。結婚、実家の親の協力を得て子育てをする等で、研修プログラムを変更せざるを得ない場合もあるので、その場合は、引き受け先の研修病院を一緒に探し、引き継ぎをきちんと行う。

研修関係のサポートでは、まず指導医に関わるものが挙げられる。カットとなった指導医から、ひどく怒られることもある。怒られて感情的になっている研修医であるが、卒後臨床研修センターで話を聞いてもらっただけで理性を取り戻すことができるようである。

医療事故は、研修医のみならず、医療関係者にとって重大な問題である。研修医が指導医に相談していたのであれば、「見落とし」は指導医の責任であるが、必ずしも研修医の相談と指導医のチェック（監査）が完璧とは言えないことがある。指導体制の問題も含めて、現場とも話し合う必要が出てくる。診療上の予期せぬ出来事（アクシデント）に直面した研修医の、心のケアが必要となる場合もある。

患者や家族からのクレームも研修医にはストレスが大きい。指導医が適切に対応しても、接する時間の長い研修医に予先が向くことがある。誠意を尽くし、真摯に対応するしかないのであるが、具体的にどういう行動をとるべきかをアドバイスをする必要がある。

インシデントを繰り返す場合や、モラルに問題があると思われる場合は、指導医や看護部門等より、看過できない行動として、卒後臨床研修センターに連絡がある。状況を正確に把握し、フィードバックをきちんと行うようにしている。かなり厳しく叱ることがある。本人から直接相談があることではないので、厳密には「サポート」とは言えないが、研修医が社会人として成長していく上でのサポートと考えている。

進路に関しては、診療科（専攻分野）の決定よりも、地元に戻るか佐賀に残るかどうかという相談が多い。新制度が開始され、最終的な進路決定の時期が卒業後にずれ込んでいるが、本院の指導医には、地元に戻るかどうかという相談はさすがにしにくい。できるだけ中立的な立場でアドバイスをするようにしている。診療科に関しては、学生の内に、特定の科に決め、奨学金を利用している場合がある。ところが、新制度で実際にスーパー・ローテート（多数の診療科を経験する研修）を行って、進路を変更する例も出てきた。通

常、思いとどまらせることはできないので、社会人としての謝罪の仕方をきちんと指導することになる。

その他、研修以外のことで、親、恋人・配偶者との人間関係に関する相談もある。

### 研修プログラム採用外のサポート

本院以外での研修を考えている6年生からの相談を受ける場合や、本院以外で研修している卒業生からの相談が含まれる。研修開始前は進路の相談が多く、推薦状を頼まれることもある。本院以外で研修している卒業生からの相談としては、メンタル・ヘルスに関するものがほとんどで、他研修病院でのメンタル・ヘルスの相談先が十分でないことが推測される。

### さいごに

今回、卒後臨床研修センターの専任医師として研修医をサポートした経験をまとめた。振り返ると、研修医の、医師としての成長と、社会人としての成長の、両方のサポートをしてきたと考えられる。そして、そのことが、教員自身の成長にもつながったと思われる。

大学で教育といえは、通常は「学生」だが、医学部の場合は、「研修医」という学習者の集団がある。彼らに必要なサポートは、学生の保健管理センターなどのサポート以外に、新米社会人に必要なサポートが含まれる。

ここでまとめたサポートは、佐賀大学の学生が、卒業し社会人となって行く過程において、遭遇する「相談ごと」「悩みごと」に通ずると考えられる。サポートを要した事項は何かのストレス源になっているので、これらに対応することは、彼らのメンタル・ヘルスを健全に維持するためにも役立つ。

今の学生は、少子化・核家族化・過保護の中で、成長するのに時間がかかる時代に生きている。卒前、卒後のきめ細かなサポートが必要である。本稿で述べたサポートは、佐賀大学の取り組みの中の、(1) 面倒見の良い大学、(2) 卒業生に愛される大学を目指す上でのヒントがあると思われる。

### 文 献

1. 江村 正、佐藤 武、小泉俊三. 研修中断者の実状と対策. 医学教育 36 : 補冊65-66、2005
2. 江村 正、佐藤 武、小泉俊三. うつ状態で休んでいる研修をいつから復帰させるのが良いか. 医学教育 37 : 補冊33、2006
3. 江村 正. 卒後臨床研修センターの専任医師として研修医をサポートした、10年の経験より. 第50回医学教育セミナーとワークショップ. WS - 9 (職場での研修生のケアとメンタリング). 岐阜. 2013. 11